二〇一四年六月一三日

絶えま無き早瀬の音や夕蛍　三刀

ジョギングの堤の茅花流しかな　さつき

庭花の白が主役や風涼し　みちほ

どこまでも栗の花咲くローカル線　うつぎ

二〇一四年六月一二日

アトリエの涼し鉛筆よく走る　さつき

梅雨の月厚き雲間を縫ひにけり　はく子

一幅の涼し大きな鯉はねて　よし子

二〇一四年六月一一日

梅雨晴間唸りを上げる草刈り機　うつぎ

捨て甕を伏せし染屋の木下闇　なつき

車椅子の先へ先へと夏の蝶　菜々

二〇一四年六月一〇日

夏空へ槌音高く棟上がる　菜々

花栗の香や筒抜けの裏戸より　雅流

のど仏上へ下へとビールほす　三刀

若竹にひかり散りばめ雨あがる　満天

雨音に和して合唱雨蛙　よし子

二〇一四年六月九日

白無垢のごと清楚なる花菖蒲　ひかり

白雲の過ぎりゆく空花楝　うつぎ

からからの喉にラムネの泡弾け　なつき

昏れてなほひときわ白き藻花かな　ともえ

二〇一四年六月八日

大津絵の鬼の泣き顔梅雨じめり　よし子

薫風や大縄跳びの息そろふ　はく子

二〇一四年六月七日

雨晴れてより紫陽花の艶ましぬ　満天

空豆のスープに浮かすパンの耳　よし女

毎日句会みのる選・二〇一四年六月一五日